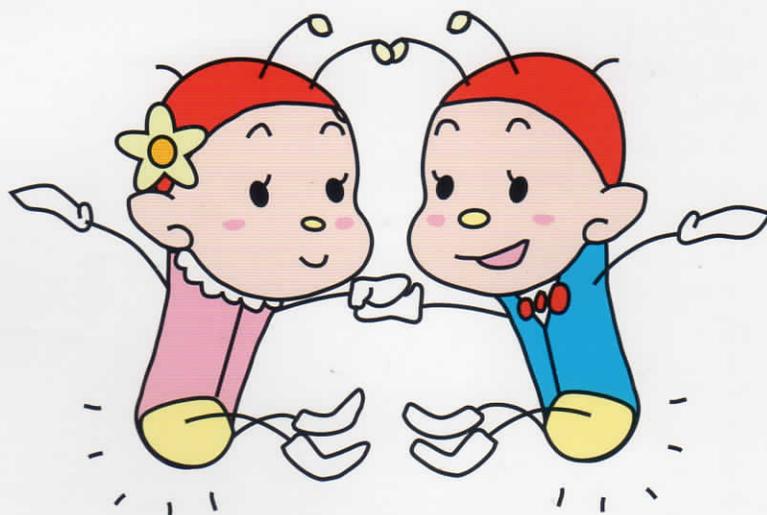


第1回～第5回 知的障害者

ふれあい虫駅伝大会 総集編



●主催／特定非営利活動法人 虫の会 ●共催／医療法人清真会 丹野病院 ●主管／水戸市陸上競技協会

KEIRIN



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://ringring-keirin.jp>

ふれあい蛸駅伝大会実施要項

1. 主 旨 みんなでふれあいながらスポーツの楽しさをあじわい、体力の増進をはかり、生きる力を高めると共に、ノーマライゼーション社会の実現に向けて、社会の知的障害者に対する認識を深め、心のバリアフリーを促進して行く事を目的とする。
2. 主 催 特定非営利活動法人 蛸の会
3. 共 催 医療法人清真会 丹野病院
4. 主 管 水戸市陸上競技協会
5. 後 援 厚生労働省 文部科学省 茨城県 水戸市 茨城県教育委員会 茨城県社会福祉協議会 水戸市教育委員会 水戸市社会福祉協議会 (株)鹿島アントラーズFC NHK水戸放送局 茨城新聞社 茨城放送 読売新聞水戸支局 朝日新聞水戸総局 毎日新聞水戸支局
6. 競技種目・期日・会場 千波湖周回コース(水戸市)

競 技 種 目	期 日	会 場
駅 伝	10月最終土曜日	水戸市千波湖周回コース

7. 競技方法 各競技別実施要項による。
8. 参加資格 陸上競技を愛好する知的障害者（中学生以上）
9. 出場人数・出場チーム・チーム編成
各競技別実施要項による。
10. 表 彰 各競技別実施要項による。
11. 参加料 参加料は不要とする。
12. その他 健康診断は各单位団の責任において実施すること。
未登録の出場は認めない。
参加については必ず父母、または施設長の承諾を得ること。

◎駅伝競走

1. 期 日 10月最終土曜日
- | | | |
|--------|-----------------------|----------|
| 受 付 | 午前 8 時 30 分～ 9 時 30 分 | 黄門像前 |
| 開会式 | 午前 10 時 | 黄門像前 |
| 出発予定時間 | 午前 10 時 30 分 | A グループの部 |
| | 午前 11 時 10 分 | B グループの部 |
| 閉会式 | 午後 12 時 45 分 予定 | |
2. 会 場 千波湖畔、黄門像広場
3. 競技方法 1 区間約 1.5km
4. 種 別 A グループ（1 区間 8 分以内）
B グループ（1 区間 8 分以上）
5. チーム編成及び参加人数
監督 1 名、コーチ 1～2 名、選手 8 名以内、計 8 名以内とする。
各チームの選手編成は、参加申込み選手の中から各区間の選手 6 名を決める。
6. 参加資格 陸上競技を愛好する知的障害者（中学生以上）
7. 表 彰 A・B 各 1 位～6 位のチームを表彰する。優勝チームには優勝杯、準優勝チームにはトロフィー、3 位チームには盾、1 位～6 位チームには賞状を授与する。
宣言タイムレースの部 宣言タイムに近い順により 1 位～3 位までカップと賞状を授与する。特別賞、蛸賞には賞状を授与する。
8. 実行委員会 水戸市本町 2 丁目 1 番 30 号 NPO 法人蛸の会内 ふれあい蛸駅伝事項委員会事務局
TEL 029-231-8738 FAX 029-231-8758

目次

橋本 昌 茨城県知事 ごあいさつ	2
加藤浩一 水戸市長 ごあいさつ	3
山東昭子 大会会長 ごあいさつ	4
沢畑清子 実行委員長 ごあいさつ	5
第1回～第5回大会	6
第1回大会	10
第2回大会	12
第3回大会	14
第4回大会	16
第5回大会	18
第5回大会出場 Aグループ	22
第5回大会出場 Bグループ	24
第5回大会出場グループ合同	28
第5回大会出場 伴走者	30
第5回大会スタッフ	31
第1回～第5回の成績	32



ごあいさつ



茨城県知事

橋 本 昌

特定非営利活動法人「蛍の会」主催による「ふれあい蛍駅伝大会」が第5回目という節目を迎えられ、記念誌を発行されましたことを心よりお慶び申し上げます。

この大会は、知的障害者の方々がスポーツを楽しみながら体力の増進を図るとともに、知的障害者に対する理解と認識を深め、心のバリアフリーを促進することを目的として、平成17年から開催されております。

振り返りますと、これまでの大会の中には、降りしきる雨の中、ずぶ濡れになりながらも懸命に走り続け、たすきをつないだという感動的な大会もありました。

全国的にも数少ない、知的障害者を対象とした駅伝大会でございますが、主催者の「蛍の会」の皆様をはじめ、多くの方々のご尽力により、年々規模が大きくなり、他県からの参加も増えてきていると伺っております。

今後とも、「ふれあい蛍駅伝大会」並びに特定非営利活動法人「蛍の会」のますますのご発展と、出場される皆様がこの大会を通じて交流を深められ、多くの良い思い出をつくられますことを心より祈念し、挨拶といたします。

ごあいさつ



水戸市長

加藤 浩一

平成17年に初めて開催されたふれあい蛍駅伝大会も、第5回となり、この度記念誌が発行されますことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

今大会では、知的障害者で構成する県内外の54チーム336名というたくさんのランナーをはじめ、ボランティアの方々や陸上関係者など総勢1300名近くの参加がありました。これは、本大会の目的であります「社会の知的障害者に対する認識を深め心のバリアフリーを推進するとともに、体力の増進、スポーツの楽しみを通して生きる力を高める」ことに大きく貢献されているところであり、ご尽力されました関係者の皆様に改めて敬意を表します。

障害者がスポーツ活動に親しみ健康増進に努めることは、障害者の自立した地域生活や社会参加を増進するものであり、本市の新障害者福祉計画の基本理念であります「障害者が地域でいきいきと生活できるまち」に沿ったものであります。

本市では、各種の障害者スポーツ大会等の支援を行うとともに、市サン・アビリティーズ等において障害者がスポーツに親しめる機会の提供に努めているところであります。今後とも、障害者の多様なニーズにお応えしながらスポーツの振興・充実に努めてまいりたいと考えております。

ごあいさつ



ふれあい蛭駅伝大会会長

参議院副議長

山東 昭子

元気に走ろう！

ふれあい蛭駅伝大会の記念誌を発行することは大変うれしく喜ばしい限りです。

昔と違って家庭でも子供の数が減り、団体で行動することが貴重になっています。知的障害を持つ人達は、何か目的をもったら、そこに向けてとことんがんばろうとする人がたくさんいます。もちろん個性は違いますから、時には機嫌が悪かったり、マイペースの参加者もいますが、この大会に出場する為、練習すること、参加する喜び、その結果がどうであれ皆が心をひとつにして、秋の一日をマラソンに熱中する事が素晴らしいのです。

駅伝は競い合いも大切ですが、それ以上に努力とチームワークが必要なスポーツであり、その結果として充実感を得ることが出来るのです。1本のタスキをつないでいくことによって！

挑戦することに意義があり、どんな困難にも立ち向かう強い心を養っていただきたいと思います。現在多くの人達が知的障害者に理解を示し協力してくれる、世の中になってきたことは喜ばしい限りです。

子供達や、成人になった人々の意識が大きく変化して、何かにチャレンジして行こうと積極的に社会参加しています。多くの体験の中でよろこびをあげわいながら知的障害者の現状や行動を理解していただき温かい社会をみんなで作らしましょう。

ごあいさつ



ふれあい蛍駅伝大会
実行委員長

沢 畑 清 子

このたび、1回から5回のふれあい蛍駅伝大会のあゆみを記念誌として発行する運びとなりました。これもひとえにこの大会を支えてくださっています参加選手の熱意、監督・コーチ、関係各位の皆様方のご協力のたまものと感謝の気持ちでいっぱいです。

本大会は、“みんなでふれあいながらスポーツの楽しさを味わい、体力の増進をはかり生きる力を高めると共に、ノーマライゼーション社会の実現に向けて、社会の知的障害者に対する認識を高め、心のバリアフリーを促進していく事を目的とする。”という趣旨のもと、知的障害者の健全育成、社会参加推進と共にスポーツの振興をはかりたいと考えています。

挑戦することに意義があり、どんな困難にも立ち向かう強い心を養っていただきたいと思います。

身体を動かしながら仲間と共にタスキに想いをこめ友情の輪をつないでいくことが出来る駅伝！自分のもてる力を精一杯発揮し次の走者へタスキをつなぐ「共に練習を重ねた仲間を信じて！」

今大会参加をきっかけに地域で困っている人に、優しく手を差し伸べてくれるおだやかな人がたくさん増えることを願っています。これからもより多く社会参加する機会を積極的に企画実行することにより、多くの体験の中でよこびをあげながら知的障害者の現状や行動を理解していただき暖かな雰囲気の中で事業が実行できるようがんばっていききたいと思います。

笑顔 健康 元気が一番